

復興事業の公共空間デザインの役割と課題 -岩手県上閉伊郡大槌町町方地区の 街路・公園デザインの検討過程から-

福島 秀哉¹・中井 祐²

¹正会員 博士(工) 東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻
(〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1, E-mail:fukushima@civil.t.u-tokyo.ac.jp)

²正会員 博士(工) 東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻
(〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1, E-mail:yu@civil.t.u-tokyo.ac.jp)

本稿は、岩手県上閉伊郡大槌町の町方地区震災復興土地画整理事業における、町方まちづくりWS2014、2015および景観概略設計を通じた公園群と主要街路のデザイン検討過程の報告・分析を通し、復興事業における公共空間デザインの役割と課題について考察するものである。町方地区の公共空間に期待された役割として、日常と非常時に有効な歩行者ネットワークの形成、近隣コミュニティのための豊かな生活空間の実現、新たな街の中心市街地としての風景の創出があったことを示し、復興事業を取り巻く環境下における、それぞれの実現に向けた検討過程から公共空間デザイン上の課題を整理した。

キーワード: 公共空間デザイン, 復興区画整理事業, 東日本大震災, 大槌町

1. はじめに

(1) 背景

本稿は、岩手県上閉伊郡大槌町(以下:大槌町)の町方地区震災復興土地画整理事業(平成24年度~34年度,施行面積30.0ha,事業費159.6億円,計画人口2100人,以下:復興区画整理事業)における公園群と主要街路のデザイン検討過程の報告・分析を通し、復興事業の公共空間デザインの役割と課題について考察するものである。

復興事業における街路・公園といった公共空間は、復興計画上の都市戦略と関連付けられるとともに、復興後の地域住民の日常生活を支え、非常時の安全性を担保すべく、様々な機能が期待される¹⁾。

さらに、地域の持続に向け、新たに整備される生活空間が地域住民と豊かな関係を築けるよう、計画・デザインプロセスへの工夫が求められる。しかし、大規模災害からの復興事業では、計画側は広範かつ多様な事業の迅速な実施が求められ、地域住民も日常と異なる生活のもと、生活再建に迫られるなど難しい状況にある。このような通常とは異なる条件を考慮したプロセスの実施と計画・デザインへの適切な反映が必要となる²⁾。

本稿は、筆者が公共空間デザインの専門家として関わっている復興区画整理事業の公共空間デザイン検討の報

告・分析を通して、その期待される役割と、各役割の実現に向けた課題について整理し、今後起き得る大規模災害からの復興事業における、公共空間デザインのあり方に関する議論に向けた知見を得ることを目的とする。

(2) 大槌町・町方地区の復興事業の概要

大槌町は、岩手県沿岸部三陸地方に位置し、地形的特徴から、大槌湾に面する町方地区、安渡地区、赤浜地区、および船越湾に面する吉里吉里地区、浪板地区(主要5地区)と、大槌川、小槌川沿いに点在する集落群によって構成されている。東日本大震災の津波により、死者、行方不明者など人的被災者1285名、家屋被害(全壊半壊)3717棟(2016年2月1日時点)と甚大な被害を受けた。筆者は、2012年より復興事業への技術支援を行っている。

大槌町の概要、東日本大震災の被災状況、復興事業の過程について既往の報告がある。特に復興事業の公共空間デザインに関連するものとして、Nakaiによる大槌町の被災状況、大槌町復興基本計画(2012.12)の策定経緯と特徴、町方地区復興基本計画の内容³⁾、および2013年度設置された大槌デザイン会議に関する報告⁴⁾がある。また、Niiによる2011年から2015年度における吉里吉里地区復興まちづくりに関する報告⁵⁾、Fukushimaによる近隣コミュニティに配慮した2013年度町方まちづくりWSと

表-1 町方地区の復興まちづくりの経緯（2011年度～2015年度）

年月	出来事／取り組み	検討段階
2011 3/11	東日本大震災発生	復興計画の方針と集住範囲の決定
6月	国土交通省都市局による市街地復興パターン概略検討業務開始	
8/29	新町長に碓川豊氏が選出 スローガンは「海が見える、つい散歩したくなる、こだわりのある『美しいまち』」	
10月～11月	被災10地区で、地区住民による地域復興協議会（隔週・計4回） 各地区の復興まちづくりの基本的な考え方と地域復興協議会の計画案を決定	
12月	『大槌町東日本大震災津波復興計画基本計画』策定	地区の骨格の決定
2012 2月	中井教授の提案によりコーディネーターが各地区のコンセプト図を作成	
4月	大槌町・コンサルタント・コーディネーターによる地区別WG開始	
9月	復興土地区画整理事業に関する都市計画決定、防災集団移転促進事業の大臣認定	
2013 3/14	第1回町方地区地区別ワーキング会議（デザイン会議） 大槌デザイン会議開始	復興まちづくりの空間イメージの決定
6/26	第2回町方地区地区別ワーキング会議（デザイン会議）	
7/9-8/25	末広町まちづくりワークショップ（第1回～第4回）	
9/27-11/9	上町本町まちづくりワークショップ（第1回～第4回）	
10/17	第3回町方地区地区別ワーキング会議（デザイン会議）	
11/30	第1回大町まちづくりワークショップ	
12/19	第4回町方地区地区別ワーキング会議（デザイン会議）	
2014 1/29	第5回末広町大町まちづくりワークショップ、事業変更内容等の報告	
2/4	第5回上町本町まちづくりワークショップ、事業変更内容等の報告	
3月	第1回区画整理事業変更	
3/4	第5回町方地区地区別ワーキング会議（デザイン会議） 大槌デザイン会議終了、大槌デザインノート（各地区の復興まちづくりの空間イメージのまとめ）完成	
2014 6/29	第6回末広町大町まちづくりワークショップ	景観（高質空間）概略設計
7/7	第1回大槌高校ワークショップ 大槌町9地区で地域復興協議会の開始（町方地区は地域復興協議会としてWSを継続） （公共空間・公共施設の具体的な検討、避難計画の策定、コミュニティ戦略の立案）	
8/1	第7回末広町大町まちづくりワークショップ	
8/23	第1回末広商店街勉強会	
10/7	第8回末広町大町まちづくりワークショップ	
11/22	第6回上町本町まちづくりワークショップ	
12/4	第2回大槌高校ワークショップ	
12/13	第7回上町本町まちづくりワークショップ	
2015 2/2	第8回上町本町まちづくりワークショップ	
2/28	第2回末広商店街勉強会	
3/18	避難ワークショップ	公共空間・公共施設の具体的な検討
2015 6/2	第3回末広商店街勉強会	
6/30	第9回上町本町大町まちづくりワークショップ	
8/30	第1回町方同窓会	
11/11	第4回末広商店街勉強会	
12/17	末広町（松の下）説明会	
2016 1/13	第5回末広商店街勉強会	
1/23	第2回町方同窓会	公共空間・公共施設の 詳細設計・施工

復興区画整理事業の計画変更に関する報告⁷⁾がある。

また、東日本大震災の復興事業に際して大槌町の地域特性を分析した研究として、田中らによる町方地区を含む大槌湾湾沿いの集落形成についての報告⁸⁾や、福島、浅井による町方地区の湧水に関する被災前の生活・生業利用の実態把握を試みたものなどがある⁹⁾。

(3) 目的

本稿の目的は以下の2点である。大槌町町方地区の復興区画整理事業を対象とし、1)町方まちづくりWS2014、2015および景観概略設計を通じた街路・公園デザインの検討過程を整理・分析し、復興区画整理事業における公共空間デザインの特徴について整理する。2)復興計画上の都市戦略の実現や、地域コミュニティの豊かな生活空間の創出など、復興事業の公共空間デザインに期待される役割とその実現への課題について考察をおこなう。

2. 町方地区公共空間デザイン検討の経緯と課題

2011年度から2015年度までの町方地区の復興まちづくりの経緯の概要を表-1に示す。本稿の主な対象は、具体の公共空間デザインに取り組んだ2014年度「公共空間・公共施設の具体的な検討」と、2015年度「公共空間・公共施設の詳細設計・施工」の検討段階である。

以下2013年度までの復興まちづくりと公共空間デザイン検討の経緯を整理し、2013年度大槌デザイン会議（以下：デザイン会議）の成果である「大槌デザインノート（以下：デザインノート）」の内容から、復興計画における町方地区の公共空間の役割と課題について示す。

(1) 2012年度までの復興まちづくりの経緯

2011年9月の碓川町長就任後、被災10地区に地域復興協議会を設置し、2011年12月「大槌町東日本大震災

津波復興計画・基本計画」（以下：復興基本計画）を策定した¹⁰⁾。目指すまちの将来像は「海の見えるつい散歩したくなるこだわりのある「美しいまち」とされた。

翌年度 2012 年 4 月より、全国の地方自治体から技術系職員を中心に応援職員を迎え新体制となった。各地区に行政担当者、コンサルタント、学識経験者で構成される地区別のワーキングチーム（以下：地区別 WG）が設置され、復興区画整理事業と防災集団移転促進事業（以下：防集事業）の事業範囲を確定し、2012 年 9 月に復興区画整理事業の都市計画決定、防集事業の大臣同意を終えた。2013 年 3 月には事業計画決定をし、起工承諾によって住民の了解を得た後、嵩上げ工事に着手した。

この時点で町方地区別 WG は、a)山裾の旧道沿いに市街地を集約、b)避難を考慮した街路体系の構築、c)日常と非日常を考慮した公共空間のネットワークの形成、d)豊かな水をいかした空間形成、の 4 つを大きな方向性とする復興計画をまとめた。中でも広場や街路について、c)日常と非日常を考慮した公共空間のネットワークの形成を考慮した配置案が検討された。具体的には、150m×200m に分割される街区ごとに地区コミュニティの中心であり、避難時の集合場所・目印となる広場（公園）を設置し、歩行者優先の区画街路や緑道で結び、広場が連なる散歩道を創出するというものであった（図-1）。

(2)2013 年度復興まちづくりの経緯

嵩上げ工事後、工事と並行して事業計画の具体化や復興区画整理事業の仮換地指定に向けた検討を進めた。

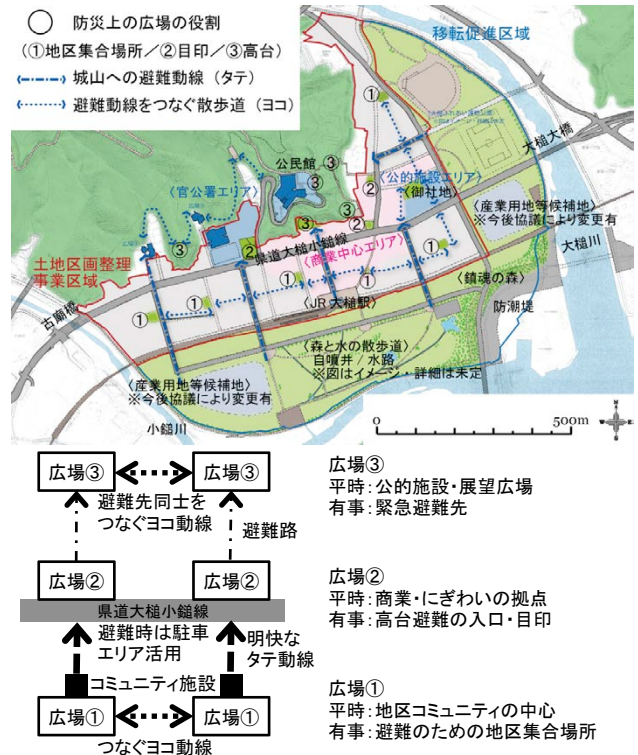


図-1 防災と街路・広場の考え方¹¹⁾

表-2 町方復興まちづくりにおける各検討段階における公共空間デザインに関わる考え方（筆者作成）

検討段階	公共空間デザインの考え方（●：市街地集約，■ネットワーク形成，★近隣コミュニティ，▲中心市街地）
2011.12 大槌町東日本大震災津波復興計画基本計画 (町方地域復興協議会)	まちの将来像：「海の見えるつい散歩したくなるこだわりのある「美しいまち」」 町方地区 (1)基本的な考え方 - 大槌町の歴史的な中心地である町方を、引き続き町の中心として復興することが多くの町民の願いです。▲ - 安全・安心に配慮したうえで、町方を大槌の中心市街地として復興します。▲ - 城山や豊富な湧水など、地域の歴史と自然の資源を活かした潤いのある都市空間の再生を進めます。★★ (2)復興方針 - 城山への避難条件や津波による浸水条件を考慮しながら、市街地の集約を図り避難しやすいまちづくりを行います。●■（中略） - 中心市街地とそれを取り囲む公園・緑地帯との接合部には、水（湧水等）を配するなど、緑豊かで潤いのある魅力的なまちづくりを行います。★★（中略） - 城山を災害時対応の機能中枢に位置付けて必要な整備を施すとともに、市街のいずれの場所からも速やかに到達できるように、避難路の体系を組み立てます。この体系と合致するように日常的な生活動線・居場所・散歩道となる公共空間（車道・歩道・遊歩道・広場・小公園など）を配置します。■ (特に公共空間デザインにかかわる部分を抜粋)
2012.6 町方地区空間計画 (町方地区別WG検討案)	a) 山裾の旧道沿いに市街地を集約● b) 避難を考慮した街路体系の構築■ c) 日常と非日常を考慮した公共空間のネットワークの形成■ d) 豊かな水をいかした空間形成★★
2013.3 大槌デザインノート (町方地区別WG会議)	全地区に共通する公共空間・施設のデザイン方針 - 歩きたくなる町を実現するうえで重要な公共空間・施設（＝歩行空間ネットワークの要所）■ - 地区住民の日常的な居場所となる公共空間・施設（＝ご近所や町内など身近なコミュニティで共用する空間）★ - 町全体／各地区の自然・歴史伝統・生活文化・住民の価値観・復興への思いを象徴もしくは代表する場所や施設★★ (各地区ごとに設定) ・個々の設計（デザイン）については、ワークショップなどを通じて地区住民とコミュニケーションを図りながら、その内容と質を検討する。 注：1) 2) の例：道、広場、公園、集会施設、にぎわいの創出が求められる街区など。とくに、日常的に住民の居場所となり、かつ非常時に避難上の目印もしくは拠点となる場所は、最重要。3) の例：歴史的な道筋、海が眺められる道、湧水のある広場、・・・など。詳細は各地区デザインノートに記述。 町方地区の復興まちづくりの基本方針 - 大槌の歴史を伝える土地に集まって住む● - 避難時の行動と日常生活を一致させる（街路と公園・広場の考え方）■ - 町方の風土と暮らしの記憶を未来につなぐ★ - 大槌の中心地としての役割を担う▲

2013 年 3 月、復興事業により整備する公共施設、公共空間のより具体的な計画・設計、各地区内外の検討内容の調整などを行うため、デザイン会議が設置された。また、町方地区では、近隣コミュニティ単位の WS（以下：町方まちづくり WS2013）が 2013 年 7 月より開催され、その成果はデザイン会議の地区別ワーキング会議（以下：地区別 WG 会議）で議論の上、他地区の成果とともにデザインノートにまとめられた¹²⁾。さらにデザインノートには、「全地区に共通する公共空間・施設のデザイン方針」がまとめられた。

(3) 町方地区の公共空間の役割と課題

以上、2013 年度までの各検討段階における公共空間デザインに関わる考え方について表-2 に整理した。以下、そこから読み取れる公共空間に期待される役割と、2014 年度以降の公共空間デザイン検討に向けた課題について整理する。なお、復興計画における生活圏の集約や高密度化も重要な課題であるが、町方地区の計画、主に事業範囲設定に関わる課題と捉え、公共空間デザインに関する考察を主眼とする本稿では割愛する¹³⁾。

a) 日常と非常時に有効な歩行者ネットワークの形成

復興基本計画から一貫して、日常的に利用され、非常時に有効な歩行者ネットワークの形成を目的としている。各街路、公園はその実現に寄与する機能が求められ、デザイン検討過程を通して各施設に求められる役割をどう具体化するかが問われた。

b) 近隣コミュニティのための豊かな生活空間の実現

一方公共空間には、近隣コミュニティの特徴を考慮し、豊かな生活空間の創出に寄与するデザインが求められた。しかし、復興事業のスケジュール上、各公共施設の設計・施工が、個人の宅地再建より先に進むため、地域住民の多くが仮設住宅に入居している状況で、将来の公共空間のあり方を議論しなければならず、住民参加の議論に対する工夫が求められた。この課題に対し、町方まちづくり WS2013 の枠組み（近隣コミュニティ単位の議論、模型やパースによる空間イメージ共有）の活用を試みた。

c) 新たな街の中心市街地としての風景の創出

町方地区特有の課題として、大槌町の中心市街地にふさわしい風景の創出が求められた。特に県道大槌駅前線、県道大槌小鎚線といった主要街路や、町役場、中心市街地、駅前広場に隣接する公園（2 号、8 号、12 号公園）などでは、近隣住民のみならず、より広い利用者を想定したデザイン検討が求められた。

以上の課題に対し、公園は町方まちづくり WS2014、2015、街路は WS と景観概略設計を中心に検討が進められた。2014 年度以降の町方復興まちづくりの主な関係者を表-3 に示す。次章から各検討の経緯と内容を示す。

3. 町方まちづくり WS2014、2015¹⁴⁾¹⁵⁾

町方地区では、復興区画整理事業の仮換地指定、公共施設の基本設計・詳細設計に向け、2014、2015 年度も引き続き町方まちづくり WS2013 と同様の形式¹⁶⁾で WS をおこない、各近隣コミュニティに関連の深い公共施設（街路、公園）の具体のイメージ検討を進めた（以下：町方まちづくり WS2014、同 2015）。2013 年度同様に、末広町大町 WS（グループ：松の下、向河原（末広商店街、御社地））、上町本町 WS（グループ：上町、本町、大町）に分け、造成時期が早い末広大町 WS から開催した。

(1) 末広町大町 WS

末広町大町 WS と、WS から派生した末広商店街勉強会、松の下説明会のスケジュールと主な議論の内容を表-4 に示す。開催通知、各回の進行、終了後のかわら版の配布など運営の方法については、町方まちづくり WS2013 の方法を踏襲している。

中心市街地に関連する向川原全体のトータルな将来像を議論するため、第 7 回、第 8 回では末広商店街グループと御社地グループが 1 つの向川原グループとして、街路（末広商店街、生活道路）、公園（6 号、8 号（御社地）、11 号）、公共施設（（仮称）御社地エリア復興拠点施設）、イベント活用等について一体的に議論した。

表-3 町方復興まちづくりの主な関係者（2014-2016 年度）

大槌町 都市整備課 区画整理班（町方班） （2014 年 4 月 - 2016 年 4 月）	都市整備課長 青木利博（神戸市）2013 年 4 月 - 渡邊圭祐（横浜市）2016 年 4 月 - 区画整理班長 穴野 勇（堺市）2014 年 4 月 - 藤原由徳（矢巾町）2015 年 4 月 - 班員（2014 年 4 月 - 2016 年 4 月在籍） 高橋雄一（川越市）杉中純弥（箕面市） 阪本 崇（愛荘町）水村将晃（川越市） 植田倭彦（岩手県）高島稔也（豊中市） 金濱賢秀（大槌町）高橋智浩（豊中市） 小島栄二（川越市）友田和弘（所沢市） 濱口浩平（箕面市）武石昌也（川越市） 杉村翔子（大槌町）大野 学（川越市） 畠山嘉輝（川越市）湯畑 宏（旭川市） 吾田幸俊（岩手県）安藤一真（豊中市） 北郷翔大（守口市）平野正晃（大槌町）
事業推進	独立行政法人都市再生機構 （UR 都市機構） 町方復興 CMr （コンストラクションマネージャー）
計画・各種調整	株式会社東京建設コンサルタント※ 株式会社邑計画事務所 日本測地設計株式会社
※景観概略設計検討担当	株式会社イー・エー・ユー（EAU）※
空間デザイン	喜多裕建築設計事務所 木内俊克建築計画事務所 田中雅之建築設計事務所
※景観概略設計検討担当	有限会社小野寺康都市設計事務所※
学識経験者	中井 祐（東京大学大学院教授） 小泉秀樹（東京大学大学院教授）
※景観概略設計検討担当	福島秀哉（東京大学大学院助教）※

表4 末広大町まちづくりWSの経緯と各回の内容

開催日時	WS・説明会	グループ	協議内容	参加人数	コーディネータ
2014 6/29	第6回末広大町まちづくりWS	松の下 商店街 御社地	生活道路、公園（10号）、災害公営住宅 街路（末広商店街）、公園（6号、11号）商店街まちなみ形成 公園（8号：御社池）、中心市街地	18	中井、小泉、福島
8/1	第7回末広大町まちづくりWS	松の下 向河原 （商店街・御社地）	生活道路、公園（10号）計画案提示 中心市街地として向河原全体のトータルな将来像 街路（末広商店街）、公園（6号、11号）、商店街まちなみ形成 公園（8号：御社池）、公共施設、中心市街地、イベント活用	23	中井、福島
8/23	第1回末広商店街勉強会（商店街主催）	商店街	街路（末広商店街）断面構成、街路活用イメージ、商店街まちなみ形成	10	中井、福島
10/7	第8回末広大町まちづくりWS	松の下 向河原 （商店街・御社地）	生活道路、公園（10号）計画案提示、災害公営住宅（集会所） 中心市街地として向河原全体のトータルな将来像 街路（末広商店街）、生活道路、公園（6号、11号） 公園（8号：御社池）、公共施設、中心市街地、イベント活用	15	中井、小泉、福島
2015 2/28	第2回末広商店街勉強会	商店街	街路（末広商店街）計画案提示、商店街のまちなみ形成 区画整理事業関連情報提供	7	小泉、福島
6/2	第3回末広商店街勉強会	商店街	街路（区12-4：末広商店街）詳細設計、仮換地画地形状、1/100模型、補助事業の紹介、商店街のまちなみ形成	9	福島
11/11	第4回末広商店街勉強会	商店街	街路（区12-4：末広商店街）詳細設計、仮換地画地形状、出入位置・車止め位置、商店街のまちなみ形成	8	福島
12/17	末広町（松の下）説明会	松の下	土地区画整理事業の事業展開、公園（10号）詳細設計、公園名称、シンボルツリー	6	福島
2016 1/13	第5回末広商店街勉強会	商店街	街路（区12-4：末広商店街）詳細設計、公園（6号、11号）詳細設計、商店街のまちなみ形成	8	福島

表5 上町本町まちづくりWSの経緯と各回の内容

開催日時	WS・説明会	グループ	協議内容	参加人数	コーディネータ
2014 11/22	第6回上町本町大町まちづくりWS	上町・本町・大町	県道（水路部）、駅前通、小槌神社参道、公園（2号）	7	中井、福島
12/13	第7回上町本町まちづくりWS	上町 本町・大町	県道（水路部）、小槌神社参道、公園（1号、2号、3号） 県道、駅前通、七軒町通、駅前広場、公園（4号、7号、12号）	13	中井、福島
2015 2/2	第8回上町本町まちづくりWS	上町 本町・大町	県道（水路部）、公園（3号） 公園（4号）の修正提案	18	中井、福島
6/30	第9回上町本町大町まちづくりWS	上町 本町 大町	県道（水路部）、公園（2号、3号、4号）修正計画案提示 （庁内関係部署との調整、技術検討の結果） コミュニティ形成（町方同窓会）について	30	中井、福島

一方、末広商店街の街路デザインは末広商店街勉強会、10号公園は末広町（松の下）説明会により個別に整備内容の説明、意見交換を行うなど柔軟な対応を心がけた。

街路や公園など公共空間デザインに関する議論においては、具体的な空間整備イメージの参考事例写真を提示し、検討案についても具体的な模型やパースを活用し空間イメージ共有を試みた。並行して技術的検討や維持管理を所管する部署との調整を行い、その結果をWSにて報告しながら意見交換し、デザイン検討を進めた。

(2) 上町本町WS

上町本町WSのスケジュールと主な議論の内容を表5に示す。基本的な運営の方法については末広大町WSと同様、2013年度を踏襲した。各回で参加人数に差がみられたため、グループの設定は当日の参加人数をみて1グループが6～10人程度となるよう調整した。

街路（県道大槌小槌線（一般部・水路部）、駅前通り、小槌神社参道、七軒町通り）、駅前広場、公園（1号、2号、3号、4号、7号、12号）の各施設について、造成時期の早い範囲に整備されるものや、水路整備、湧水活用に関わる技術検討が必要なものから順次、検討案の提示、意見交換、技術検討と修正提案の提示等をおこなった。

(3) 検討上の課題と工夫

検討上の課題として、復興区画整理事業の仮換地指定に向けた作業の中で、公園の敷地形状が変更されるなどデザインの条件の変更の可能性がある一方、議論に際しては、復興後の生活空間を具体的にイメージできる検討案の提示が求められたことがあげられる。また、500㎡程度の各公園において、先述の公共空間の役割のうち、日常と非常時に有効な歩行者ネットワークの形成、新たな街の中心市街地としての風景の創出といった都市デザイン上のコンセプトと、近隣コミュニティのための豊かな生活空間の実現をどう両立するかが問われた。

検討の結果、公園デザインにおいては、公園境界部に周辺街路との関係を築き都市デザイン上のコンセプトを実現する機能を持たせ、内部に近隣コミュニティの要望の実現や自由な活動を担保するスペースを設けるという共通の方針を設定した。具体的には境界部にベンチや植栽、商店街と共通の舗装、照明、水飲み場、湧水の水舟（キッツ）、手押しポンプなどデザイン要素を集約し、内部には近隣コミュニティが自由に使えるスペースを確保した。結果として、敷地形状の変更後もWSで議論した内容を反映したデザインの変更が可能となった。

4. 景観概略設計（町方地区）¹⁷⁾

(1)経緯と概要

事業期間や事業費上の制約，並行して進められる事業間の調整，復興後の維持管理費・維持管理体制への配慮など様々な制約条件のもと，被災後から一貫して積み重ねられた復興まちづくりの議論の成果を実現するため，各地区の街路・公園等公共空間デザインを総合的に調整する，景観概略設計の検討が2016年6月から始めた。

検討は各地区の復興計画策定に当たっていたコンサルタント，デザイナーと学識経験者（福島）を中心に進められ（表-3），同業務の発注者である都市整備課，維持管理担当の環境整備課，各地区のコーディネータらと協議し進められた。スケジュールと検討内容を表-6に示す。

主な検討内容は，①景観概略設計の基本的な考え方の整理，②道路・街路の分類とデザイン検討・基本計画図の作成，③公園・緑地の分類と整備条件・留意点の整理，④街具・製品と色彩のデザイン方針の4点であった。実質的な検討は町方，沢山，寺野（防集団地），小枕，安渡，赤浜，吉里吉里，浪板の8地区を対象に行われたが，本稿では全地区共通の内容および町方地区の内容を示す。

(2)景観概略設計の基本的な考え方

景観概略設計の検討に当たって，それまでの大槌町の復興事業における公共空間デザインの考え方と，各地区の検討内容から，下記2つの基本的な考え方を整理した。

a) 復興後の大槌の風景の基調をつくる

復興後の大槌の風景の主役は，大槌の豊かな自然や人々の暮らしである。また，個人再建で建つ家々より先に完成する公共空間は，復興後の大槌の風景，新たな街並みの基調となる。復興事業により整備される公共施設や土木構造物は，一貫した戦略に基づいた基調となるデザインが求められた。

b) 豊かな暮らしの風景を支える（歩いて暮らせる街：町方地区の公共空間に期待される役割の実現）

デザインノートには，歩いて暮らせる街の実現に向けた歩行者ネットワークの実現，官民一体となった街並みの形成など，これまでの計画者と住民の議論の積み重ねの成果として，町方地区の公共空間に期待される役割が整理されていた。デザインの戦略性，一貫性に加え，デザインノートの実現に向けたデザイン方針が求められた。

(3) 道路・街路の分類とデザイン検討

検討の結果，街路景観整備に関する基本設計報告書として示された基本方針と街路分類・内容について表-7に示す。例えば，区画整理事業の歩行者専用道の標準仕様であるインターロッキングブロックの面整備に対し，官

表-6 景観概略設計の経緯と各回の更新項目

開催日時	協議参加者	街路分類	街路一覧	平面	検討段階
2014 7/16	コーディネータ他	-	-	-	
7/24	コーディネータ他	-	○	○	
8/8	コーディネータ他	○	○	-	
9/3	コーディネータ他	○	○	-	
9/11	都市整備課	○	○	○	初期案
9/30	事業構造会議	-	○	○	
10/3	コーディネータ他	-	-	-	
10/7	都市整備課／コーディネータ	-	○	○	
10/14	都市整備課／環境整備課／復興推進課	-	○	○	
10/17	都市整備課／環境整備課	-	○	○	
11/4	復興推進課／コーディネータ	-	-	-	
11/4	副町長／都市整備課／コーディネータ	-	-	-	
11/10	コーディネータ他	-	-	-	
11/20	都市整備課	○	○	○	基準精査 +絞込み案
11/27	副町長／都市整備課	-	-	-	
11/28	景観概略設計協議	-	-	-	
12/17	コーディネータ他	-	○	○	
12/18	コーディネータ他	-	-	-	
12/25	地区コーディネータ	-	-	-	
12/26	景観概略設計協議	-	○	○	庁内調整案
2015 1/26	都市整備課	-	-	-	
2/23	景観概略設計協議	-	-	-	
5/21	都市整備課	-	○	○	最終調整案

表-7 景観概略設計における道路・街路の考え方

【基本方針】	
・耐久性に優れた一般的な素材・製品でデザインする ・境界部を重視した効果的なデザインとする ・歩いて暮らせるまちの実現に資するデザインとする ・海・山・街並みといった周辺景観が主役となるような控えめなデザインとする ・長期にわたる供用をふまえた飽きのこないデザインとする	
街路分類・説明	備考
分類A 景観・都市空間形成上 特に重要な街路	大槌町としての都市戦略上，または各地区の自然，歴史，暮らしなどの観点から特に重要な街路であり，各路線の特性や協議会・WSなどによる住民の議論の積み重ねをふまえて，個別にデザイン検討を行う。
分類B-1 景観・都市空間形成上 重要な街路	各地区の景観・都市空間形成，自然，歴史，暮らしなどの観点から重要な街路であり，共通事項に示した標準デザインの考え方をふまえて，官民境界部にディテールを集約したデザインにより，歩行空間の魅力向上，安全・快適な歩行空間の確保を図る。
分類B-2 歩行者ネットワークの 形成上重要な街路	各地区のにぎわい創出，防災等の観点から，歩行者ネットワークの形成上重要な街路であり，共通事項に示した標準デザインの考え方をふまえて，官民境界部にディテールを集約したデザインにより，歩行空間の魅力向上を図る。なお，歩行者専用道の当初一般仕様であるインターロッキングブロックは，大槌の周辺風景になじみにくいことと周辺景観を主役とする考え方から原則とりやめ，黒アスファルト舗装を基本とする。
分類C その他の街路	一般の住宅街など，日常利用が主な街路などであるが，シンプルな形状・ニュートラルな色彩の転落防止柵等の立上り要素の採用，擁壁・補強土壁等のコンクリート構造物における抽象的な意匠処理，法面の積極的な緑化等基本的な景観配慮を行うことで，街路空間全体の質的向上を図る。

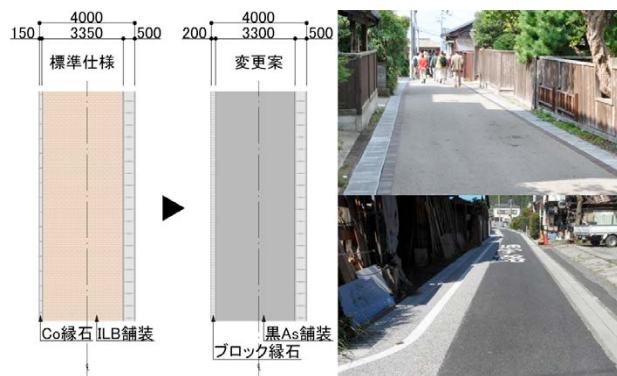


図-2 街路検討例と参考写真（右上：佐渡市，右下：青森市）

表-8 景観概略設計における公園・緑地の考え方

【基本方針】	
・地域（利用者）の声をよく聞き、利用者にとって居心地のよい空間をデザインする ・歩いて暮らせるまちの実現に資する「まちかど」形成を意識してデザインする ・施設の長期にわたる供用を考慮した意匠とする ・施設整備では中長期的な維持管理負担の軽減を考慮する	
公園・緑地分類・説明	備考
大規模 地区内外から多くの利用を見込む、大規模な公園・緑地	大槌町・各地区を代表する／自然・歴史・暮らしなどの観点から特別に重要／地区内外から多くの利用が想定される公園・緑地 協議会・WS等による議論の積み重ねを踏まえて、重点的なデザイン検討を行う。
中規模 地区内・近隣住民のコミュニケーションの場として利用される中規模の公園・緑地	各地区内の住民が集い中心的なコミュニケーションの場となると想定される公園・緑地 共通事項に示した標準デザインの考え方・標準的な仕様を反映し、標準的な整備を行う。 住民意見をうけ必要に応じて特別な設えを検討する。（キッツ、バスケットゴールなど）
小規模 その他の公園・緑地 （団地内住民の利用が主となる公園・法面の緑地帯など）	小規模な住宅地内の公園や法面の緑地帯など。近隣住民の日常的利用が想定される。 共通事項に示した標準デザインの考え方・標準的な仕様を反映し、必要最低限の整備を行う。（基本的には、植栽・ベンチ・照明・柵類など）住民意見をうけ、必要に応じて特別な設えを検討する。

民境界部にディテールを集約した黒アスファルトベースのデザイン案を提示するなど、復興後の財政状況や維持管理体制の厳しい状況を考慮し、面的な高質化ではなく境界部の重要性を強調する方針が出された（図-2）。

(4) 公園・緑地の分類と整備条件・留意点の整理

公園・緑地検討においては復興区画整理事業に関するWSを通して、住民や管理者の意見をふまえ、コーディネート監修のもと、先行して検討が進んでいた町方地区を参考に、今後検討される他地区への準用を目指した整理を行った（表-8）。

(5) 街具・製品と色彩のデザイン方針

街具・製品については、景観概略設計の基本的な考え方に基づき、自然を模した擬似製品や過度に装飾的な製品は避け、素材の特性をいかしたシンプルな形状のものを選ぶ、柵や照明柱などの色は彩度の低いものに統一する、様々な施設に統一した製品を使用する、コストをで

きるだけ抑えるなどの留意点を整理した。色彩は、各種ガイドライン¹⁸⁾ ¹⁹⁾の推奨色からダークグレー（マンセル値10YR3.0/0.2程度）を選定し、既製品の柵や照明柱なども、できる限り近い色の既製品を用いることとした。なお、具体的製品イメージ検討時に、各地復興事業が一斉に進む状況を考慮し市場性について十分配慮した。

(6) 課題

景観概略設計の検討の成果については、維持管理を所管する担当部署を中心に行政との調整が難航し、特に道路・街路デザインに関する提案の多くは実際の整備に結びつかなかった。以下その要因について考察を行う。

a) コンセプト・空間デザインイメージ共有上の課題

復興基本計画から一貫している日常と非常時に有効な歩行者ネットワークの形成に関して、避難に向けた対策に関わるデザイン方針は比較的共有された（目印となる公園・植栽など）。一方、景観概略設計において提案した、境界部の重要性を強調する方針に基づくデザイン方針は、基本設計、詳細設計、施工と事業の各段階に進むにつれ、多くの関係者が関わる中で共有が難しくなっていた。これは、例えば景観計画に重要な公共施設を限定し、整備費、デザイン密度を集約するといった方針と比較すると、多くの公共施設の設計・施工に影響すること、各路線単体の事業としてみた際の景観向上効果が分かりづらいことなどが要因と考えられる。さらに「小舗石やボーダーといったデザインは住民の思いではなかったと考えている」（大槌町職員2/23景観概略設計議事録）など、WS等において住民意見が出づらい具体のデザイン内容に関する関係者間の合意形成が困難であった。

b) 公共空間の維持管理体制・予算上の課題

整備事業や維持管理を所管する担当部署との調整上課題となったのは、復興庁との予算交渉の難航や、復興後の維持管理体制・予算上の制約であった。また、被災前の時点で大槌町のインフラの維持管理状況は厳しい状況にあり、境界部とはいえ道路構造に影響するデザイン提案は受け入れられづらかった。そのような復興後の財政状況の前提を十分に配慮し、かつ公共空間に期待される役割の実現に向けた街路デザイン手法の提案が求められたが、その十分な対応が困難であった。

c) 公共空間デザインの実現に向けた体制上の課題

復興事業を推進する応援職員や、維持管理を担うプロパー職員、UR、CMrなど多くの関係主体が関わる中、公共空間デザインの整備方針に関する主体間の調整、および一貫した意思決定に向けた体制の構築が困難な場面があった。結果、デザイン戦略を共有し、詳細は現場の状況に合わせ柔軟に変更するといった空間デザインの実現に必要な対応を十分に取ることができなかった。

表-9 町方地区の街路・公園（1-10号公園）²⁰⁾

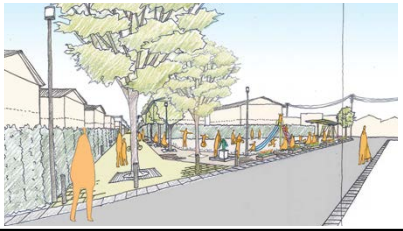
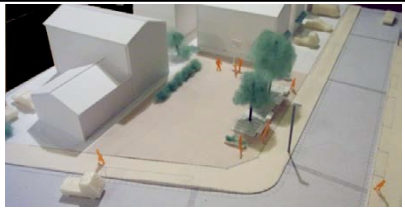
施設名称	検討経緯・概要	整備イメージ
1号公園 （城内公園） 面積：700㎡ 想定利用： 近隣住民 上町（城内）	検討：町方まちづくりWS（上町本町WS）／景観概略設計 ・旭通りと湧水を巡る公園群の一体的整備の起点（シンボルツリー植栽） ・旭通りに続く歩道との一体的な整備 ・現況地盤で自噴しないためポンプアップで井戸を設置	
2号公園 （代官所公園） 面積：750㎡ 想定利用： 大槌町民全体	検討：町方まちづくりWS（上町本町WS）／景観概略設計 ・城山（高台）へ登る入口に位置し、避難道の目印 ・中央公民館や役場庁舎に近く不特定多数の利用者が多く訪れる ・代官所跡の史跡と一体的な整備が望まれる ・防火水槽設置、小釜川から湧水による県道水路と一体的な整備 ・親水公園としての整備を検討（水路・水面を眺める場（屋根+ベンチ））	
3号公園 （八日町公園） 面積：500㎡ 想定利用： 近隣住民 上町（八日町）	検討：町方まちづくりWS（上町本町WS）／景観概略設計 ・旭通りと湧水を巡る公園群の一体的整備 ・「旭の井戸」など震災前の共用井戸（湧水）の記憶を活かした公園 ・水舟（キッツ）を設置 ・排水上の課題により現況地盤付近のレベルを保った自噴形態による湧水活用の案は中止	
4号公園 （四日町公園） 面積：500㎡ 想定利用： 近隣住民 本町（四日町）	検討：町方まちづくりWS（上町本町WS）／景観概略設計 ・旭通りと湧水を巡る公園群の一体的整備 ・水舟（キッツ）を設置 ・自噴形態での湧水活用可能性を検討 ・自噴形態での湧水活用に向け、現況地盤付近のレベルを保つ場合、造成・排水計画等についてCMRと検討 ・3号公園の自噴形態による湧水活用中止により、3号公園案を踏襲	
6号公園 （末広町公園） 面積：360㎡ 想定利用： 近隣住民 商店街利用者 観光客	検討：町方まちづくりWS（末広町大町WS）／景観概略設計 ・末広商店街の顔としての広場、まとまった憩いの場を設ける ・骨格を残した旧道の辻に位置する歴史的に重要な場所、旧街道の骨格を残す角地としての広場を設ける ・樹木やベンチを整備する、人の集まるスペースは顔となる北側に集約的に配置する ・商店街の街並み形成との一体的な整備の方針、商店街での使い方	
7号公園 （大町公園） 面積：500㎡ 想定利用： 近隣住民 大町	検討：町方まちづくりWS（上町本町WS）／景観概略設計 ・旭通りと湧水を巡る公園群の一体的整備 ・「旭の井戸」など共用井戸の記憶を活かした公園 ・水道や湧水手押しポンプを整備 ・見通しの良い広場、外周部に人の居場所（ベンチ、四阿） ・隣接する災害公営住宅の建築・駐車場・外溝計画との調整が必要	
8号公園 （御社地公園） 面積：500㎡ 想定利用： 大槌町民全体 観光客	検討：町方まちづくりWS（末広町大町WS）／景観概略設計／庁内各部署 ・大槌の人の中心的な拠り所としての御社地公園 ・中心市街地計画（官民合築施設等）と一体的な整備 ・自噴形態での湧水活用を目指し現況地盤付近レベルの整備を検討 ・即身仏、天神様など歴史的史跡に配慮した整備を行う ・商店街のイベントや祭りの際の利用を考慮する ・排水・避難について十分配慮する ・自噴形態での湧水活用に向け、現況地盤付近のレベルを保つ場合、造成・排水計画等についてCMRと検討が必要 ・中心市街地整備（官民合築施設等）との一体的に検討 ・公園内に防火水槽を埋設	
10号公園 （松の下公園） 面積：450㎡ 想定利用： 近隣住民 松の下 通学の学生	検討：町方まちづくりWS（末広町大町WS）／景観概略設計 ・四阿や花壇の設置、植栽等に関して地元の要望あり ・ご近所の庭先や商店などとの一体的利用を考慮 ・四阿は隣地側に寄せつつ周囲に十分なスペースを確保する ・住民、通学する学生、公園利用者が触れあえるスペースを設ける ・公園周辺に日常的な買物や飲食ができる商店を集約したいとの要望有り（換地作業との調整）	

表-10 町方地区の街路・公園（11-12号公園，主要街路）²¹⁾

施設名称	検討経緯・概要	整備イメージ
11号公園 (向川原公園) 面積：250㎡ 想定利用： 近隣住民 通学の学生	検討：町方まちづくりWS（末広町大町WS）／景観概略設計 ・商店街の角に位置し、お客や学生が利用する広場 ・商店街のイベント時を考慮し色々な使い方ができる場所を設ける ・街角を豊かにするベンチや植栽を、商店街に面して設ける ・樹木やベンチを整備する、人の集まるスペースを通り側に集約的に配置 ・高校生のみならず小さな子どもも遊べる砂場や遊具	
12号公園 面積：540㎡ 想定利用： 大槌町住民全体 通学の学生など 駅利用者	検討：町方まちづくりWS（上町本町WS）／景観概略設計 ・駅前通り、駅前広場、12号公園を大槌町の玄関口にふさわしい街路、広場として一体的に整備 ・旭通り、駅前通り、駅前広場、七軒町を連続した散策路として整備 ・かつてのやぐらの再建→イベント開催や観光案内などの機能を併設 →事業費の関係上中止 ・駅前通り、駅前広場と一体的に検討 ・公園内に防火水槽を埋設	
県道大槌小鎚線	検討：町方まちづくりWS（上町本町WS）／景観概略設計 ・城山側に水路を設ける（歩行幅員確保のため、グレーチング蓋架け） ・まちかどづくりの一端を担う街路樹を主要交差点付近を中心に植栽 ・電柱は宅内配置とする	
大槌駅前線	検討：町方まちづくりWS（上町本町WS）／景観概略設計 ・まちかどづくりの一端を担う街路樹を主要交差点付近を中心に植栽 ・その他仕様は、町方の主要街路として、県道大槌小鎚線と同様とする	
区12-4道路 (末広商店街)	検討：町方まちづくりWS（末広町大町WS）／末広商店街勉強会 ／景観概略設計 ・にぎわいが感じられる街路（地元の人々の多様な利用） →歩道照明，プランター，よ市（イベント）利用 ・通りの両側・歩道と車道が一体的に感じられる街路 ・安全に安心して歩ける街路（段差解消，車両速度抑制，公園等と連携）	
歩4-7，4-15，4-9 (七軒町通り)	検討：町方まちづくりWS（上町本町WS）／景観概略設計 ・被災前のイメージを踏襲する街路デザイン ・駅と商店街，小中一貫校，高校をつなぐ通学路の一部の歩行者専用道 ・安全に安心して歩ける街路	

5. さいごに

本稿で取り上げた街路・公園について表-9、表-10、図-3にその位置と概要を示す。本稿では、町方地区の公共空間に期待された役割として、日常と非常時に有効な歩行者ネットワークの形成、近隣コミュニティのための豊かな生活空間の実現、新たな街の中心市街地としての風景の創出を指摘し、それぞれの実現に向けた公共空間デザイン上の課題を示した。復興事業の成果と課題、および事業特性と各検討段階の影響、被災前の地域特性、デザインコンセプトと具体のデザイン提案の特徴、実現に向けた調整や意思決定体制の構築など、復興事業をと

りまく条件との関係について、今後分析・考察を進める必要がある。また、2017年9月現在、本稿で触れた多くの公共空間が竣工し始めている。今後、住宅再建が進んだ後の利用状況等も踏まえた分析を行っていきたい。

謝辞：町方地区の復興まちづくりは、地区住民、町役場職員、コンサルタント、学識経験者の協働によっておこなわれた。本稿はその一部を筆者の視点でまとめたものであり、記述内容に関わる一切の責任は筆者に帰する。情報提供頂いた皆様に厚く謝意を表するとともに、復興事業に関わる皆様の御努力が1日も早い、魅力的な大槌町の復興に結実することを願う。



図-3 町方地区の街路・公園検討案（2014年度検討時）（2014年度景観概略設計検討資料に筆者加筆）

参考文献

- 例えば、榎村は阪神淡路大震災の復興事業の事例分析から、専門家からみれば都市の骨格である公園や緑地に対して、近隣住民が生活とつながった意味を見出していくことの重要性を指摘し、区画整理事業による復興事業を地域住民と公共施設の関係を再構築する重要な機会と捉えている。また岩村は、公園計画策定への住民参加が、整備後の地域住民による管理運営活動を活性化すると指摘している。榎村久子、被災地の住民主体によるまちづくり活動と公園・緑地の回復と形成、日本造園学会、ランドスケープ研究、Vol. 60, No.2, pp.148-150, 1996, 岩村高治、横張真、公園計画策定時における住民参加がその後の公園管理運営活動に与える影響、日本造園学会、ランドスケープ研究、Vol.65, No.5, pp.735-738, 2002
- 榎村久子、被災地の住民主体によるまちづくりの意思形成過程とコミュニティ形成～共有されるランドスケープのために～日本造園学会、ランドスケープ研究、Vol. 62, No.3, pp.230-234, 1999
- 園田千佳、坂本慧介、石川幹子、復興まちづくりの計画策定プロセスにおける住民ワークショップの役割に関する研究-宮城県岩沼市における復興まちづくりを通して-、日本都市計画学会、都市計画論文集、Vol.48, No.3, 2013
- Nakai, Y., Reconstruction plan of Otsuchi town, Kamihei county, Iwate prefecture, *Journal of JSCE*, Vol. 1, pp.242-250, 2013.
- 中井祐、大槌町の復興における各地区空間計画-大槌デザイン会議の試み-、景観・デザイン研究講演集、No.10, pp.290-292, 2014
- Nii, A., Process and challenges of the town reconstruction planning and spatial design using the local resident's collaboration style -Base on the experience at Kirikiri district, Otsuchi town, Iwate prefecture, *Journal of JSCE*, Vol.5, pp.256-268, 2017
- Fukushima, H., Workshop arrangement in neighborhood communities for resident's participation in the reconstruction land readjustment project of Machikata district, Otsuchi town, Kamihei county, Iwate prefecture, *Journal of JSCE*, Vol.5, pp.190-205, 2017
- 田中暁子、窪田亜矢、岡村祐、黒瀬武史、森朋子、永瀬節治：大槌町の都市形成史にみる市街地と海の関係の変化-大槌町の風景再生に向けた文化資源調査その1、日本建築学会大会学術講演梗概集、pp.651-652, 2012
- 福島秀哉、浅井淳平、湧水と生活史に関する記述-岩手県上閉伊郡大槌町町方を対象として-、景観・デザイン研究講演集、No.10, pp.1-4, 2013
- 大槌町、東日本大震災津波復興計画 基本計画、2012
- 2012年6月30日町方まちづくり懇談会配布資料（筆者作成）に加筆・編集。
- 大槌デザイン会議、大槌デザインノート（未定稿）、2013
- 町方地区復興計画における市街地集約の議論については、前掲4)を参照のこと。
- 独立行政法人都市再生機構岩手震災復興支援本部、平成26年度大槌町町方地区修正基本設計等業務報告書、2015
- 独立行政法人都市再生機構岩手震災復興支援本部、平成27年度大槌町町方地区に係る事業推進検討業務、2016
- 町方まちづくりWS2013の詳細については、前掲7)を参照のこと。
- 大槌町、景観形成計画等検討業務委託報告書、2015
- 国土交通省、景観に配慮した防護柵の整備ガイドライン、2004
- 岩手県、岩手県公共事業等景観形成ハンドブック、2010
- 検討経緯・概要は前掲14)、15)、16)より整理。整備イメージは町方まちづくりWS資料より抜粋（模型作成：喜多裕、木内俊克、田中雅之、eau、スケッチ：西山健一（eau））
- 検討経緯・概要は前掲14)、15)、16)より整理。整備イメージは町方まちづくりWS資料より抜粋（模型作成：喜多裕、木内俊克、田中雅之、スケッチ：西山健一（eau））